

「今、総センが ア ッ イ !!」

総合教育センターの事務室に蝉の鳴き声が賑やかに聞こえてきます。学校園では、夏季休業中とはいえ水泳教室や部活動等で活動する子どもたちの元気な声が響いていることでしょう。

伊丹市立総合教育センター
所長 江原 礼子



8月の花
「ヒマワリ」
花言葉：情熱



さて、夏季休業中は、当センターが最も、熱くなる時期です。それは、2学期からの授業や生徒指導等に活かすべく、多くの先生方が研修に参加されるからです。7月24日には、採用2年次及び、3年次の先生方を対象に研修会を行いました。

2年次研修では、自分の授業を振り返り、2学期の授業づくりの改善点について、グループ協議を行いました。学習規律の徹底、学力差への対応、ICTの活用等に加え、先輩教員への積極的な相談という考えも多数出ていました。

また、3年次研修では、現状を話し合い、各々の課題を明らかにしました。研修終了後の感想から責任ある仕事が増えるなか、同期と気さくに悩みを出し合い、教職への意欲を一層喚起する機会となったことがうかがえました。

当センターで熱くなっているのは、先生方だけではなく、子どもたちもエジソン、ガリレオさながらに熱くなっています。

小学校低学年対象のエジソンくらぶ第1回ワクワクグループでは、色水の実験を行いました。「いろ水に石けんをいれたらあわあわになるかとおもったら、あおいろになってびっくりしたよ。」等の感想が寄せられています。

小学校高学年対象第1回ドキドキグループでは、炎色反応の実験を行いました。青い炎が、オレンジ色や緑色に変化する様子を食い入るように見ている子どもたちは、まるで科学者のようでした。

さらに、第1回ガリレオくらぶでは、中学生がドイツ製のプラモデルを使って、軽くて強い橋づくりに挑戦しました。トップ賞には、見事、南中3年生チームが輝きました。失敗を重ねながらも、2人（他チームは5人程度）で知恵を出し合っていた笹原中2年生チームは特別賞を獲得しました。

エジソンくらぶやガリレオくらぶの活動には、小・中学校の先生方や企業の方々が、ご協力くださっています。ありがとうございます。

3年次研修参加者の声から

同期に久しぶりに会えてうれしかったです。各学校で、責任をもって仕事をしている仲間のお話を聞き、とても有意義な研修になりました。課題解決に向けてこの夏しっかり勉強しようと強く思うきっかけになりました。

夏季休業中は、2学期に向けた充電期間です。当センターも活用していただき、心身ともにリフレッシュして、2学期をお迎えください。

平成25年第3回伊丹市議会における質問

6月、平成25年第3回市議会が開催されました。教育に関する内容については、「中学校給食、小学校給食、伊丹市ピアサポートプログラム（冒険教育）、いじめ問題、道徳教育、全国学力・学習状況調査、英語教育、通学路、校外学習」について質問がありました。この中から次の2点について、質問内容及び伊丹市教育委員会の考えを抜粋、要約して紹介します。

1. 中学校給食の実施

【質問趣旨】

- ① 教育委員長の想いと見解について
- ② これまでどのような議論がなされてきたか



【伊丹市小学校給食】

【答弁内容】

（教育委員長答弁）中学校給食についてお答えします。

社会や家庭の状況が変化する中で、保護者や市民から中学校給食の実施を望む声が高まってきており、食育の推進に、学校給食の有効活用が期待されるようになってきました。中学校給食の実施は、生徒に栄養バランスや正しい食の知識を習得させ、心身ともに健康で充実した学校生活を送ることに大きな効果があります。加えて、すでに全国の公立中学校での完全給食実施率が8割を超えていること、近隣市においても中学校給食実施に向け取り組んでいることなどから、中学校給食実施に向けた検討を進めていく必要性があると考えています。

次に、教育委員会での中学校給食の議論についてですが、教育委員会は、教育関係の重要事項を決める「合議体の執行機関」であることから、かねてから懸案事項であった中学校給食についても見識を深め、共通認識をもつための研修を重ねてまいりました。昨年11月の教育委員協議会から、児童と一緒に給食や業者弁当を食べながらの意見交換や視察も含め、9回の研修の中で、近隣市の中学校給食実施状況や各方式におけるメリット、デメリットなどについて事務局から情報提供を受け、中学校給食に関する見識を深めてまいりました。今後は、今議会においてご審議いただいております「（仮称）伊丹市中学校給食導入検討委員会」において、「中学校給食のあり方について」を諮問し、多方面の視点からの検討を重ねていただきながら、市民の皆様に対して、教育委員会としての方針を示してまいりたいと考えておりますので、ご理解いただきますようお願いいたします。

2. 道徳の教科化について

【質問趣旨】

- ① 教育長は道徳の教科化についてどのように考えるか
- ② 小・中学校の道徳の授業の現状・課題について

【答弁内容】

（教育長答弁）（略）伊丹市においては、平成21年度の中学校傷害致死事件を受け、善悪の判断や規範意識を培うため、発達段階に応じた「伊丹っ子ルールブック」を作成し、道徳教育を重視してきました。

そして、これらの教材は道徳の時間だけでなく、学級活動において使用するなど学校教育活動全体を通して道徳教育に取り組んでまいりました。



【兵庫県版道徳教育副読本】

（中略）教科となりますと、教科書、中学校においては教科の免許が必要なこと、5段階など数値による評価を必要とします。このようなことを総合的に判断しますと、道徳教育の重要性は変わりませんが、現時点では、道徳の教科化には、賛成はできるものではありません。

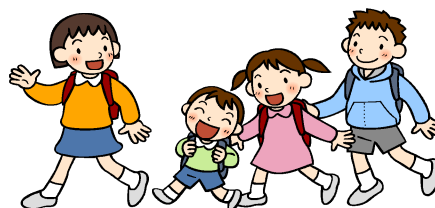
（学校教育部長答弁）「本市における小・中学校の道徳の授業の現状と課題について」のご質問にお答えいたします。

学校における道徳教育の要となる道徳の時間の授業時数については、全小・中学校において各学年が年間指導計画に基づき計画的に実施しており、年間35時間、ただし、小学校1年生は34時間の授業時間が確保されています。

指導にあたっては児童生徒の実態を把握し、教材を工夫するなどしています。例えば、「兵庫県版道徳教育副読本」を学校で活用するとともに、長期休業中等には家庭に持ち帰らせ、親子で一緒に読み、道徳心について語り合うなど、学校と家庭が連携して児童生徒の心の醸成を図る取組等も行ってまいりました。加えて、「伊丹っ子ルールブック」、「市内共有教材」等の教材を活用し、地域の実態に応じた授業内容の工夫を行ってきました。（中略）

一方、教職員の指導力向上につきましては、県教育委員会が主催する「道徳教育推進教師」を対象とする研修会において、各校で任命された道徳教育推進教師の資質向上を図ることで、学校全体の道徳教育の質を高める研修が行われております。（中略）総合教育センターにおきましては、「こころの理解講座」を実施する等、教員の指導力の向上を目指した継続した研修を行っております。（中略）

今後の課題といたしましては、子どもたちのコミュニケーション能力の低下や規範意識の低下といった課題に対応できるように常に指導方法や資料を見直しするとともに、教員の指導力の更なる向上を図っていくことが重要であると捉えています。



「インクルーシブ教育って？」

インテグレーション(統合教育)、同じ場(地域の学校)で学ぶという考えから一歩進んで「インクルーシブ(共生)」な社会をめざす教育が求められています。

例えば、スロープやエレベーターが設置されてバリアフリーとなっても、車椅子を押す人がいなければ歩行が困難な人の社会参加は進みません。個々の障がいの状態や教育ニーズに応じた、その時点での最適な支援(合理的配慮)が行えるようなシステムづくりが必要なのです。子どもの自立と社会参加を見通したニーズに応じた教育が的確に行えるよう、今ある教育的資源を組み合わせながら多様で連続した柔軟に学べる仕組みが必要です。

障がいの有無に関わらず、必要な支援を受けながら、可能な限り共に学ぶことができるような教育システムがインクルーシブ教育です。

1学期総合教育センター研修会

平成25年度総合教育センターでは、子ども理解、保護者理解を促進し、人間関係づくりを円滑にするための手法を身に付けることを目指し、こころの理解講座を年間5回シリーズで開催します。

第1回目は5月30日に、神戸大学大学院 川畑 徹朗 教授をお招きして「しなやかに生きる心の能力を育てるライフスキル教育」をテーマにご講話いただきました。「セルフエスティーム(自尊心)を育てることが生きる力を育てることの第一歩。学校生活の中で子どもが充実していること、集団の中で自分が大切にされていると感じさせることが大切だ。」との言葉が印象的でした。

夏季休業中には、2回目から5回目を実施します。「ストレスコントロール」、「人間関係づくり」「子ども理解や集団づくり」「保護者の信頼が得られる接し方」について、兵庫教育大学大学院 富永 良喜 教授、大阪国際大学 米田 薫 教授にご講話いただきます。4、5回目は8月20日にあります。是非、ご参加ください。

また、6月7日には、奈良教育大学 岡澤 祥訓 教授をお招きし「子どもの力を引き出す部活動指導」をテーマにトワイライト研修を開催し、無理な指導に頼らない指導方法について、ご講話いただきました。

以下は岡澤先生のご講話にあった指導法の中の数例です。

(バランスの良い緊張の度合いを保つために)

「呼吸法」…………… 子どもの様子を見て、緊張している場合に深呼吸させる。

「プラス思考のトレーニング」…………… 「完璧にしなければならない」という思考を「やれることはやろう」という思考に変える。

8月28日・29日、9月4日・6日には体罰根絶に向けた教職員研修を実施いたします。総合教育センターでは、これからも、子どもたちが健やかに成長できますよう、ニーズに応じた研修会を実施し、教職員の指導力・資質の向上に努めてまいります。